

(6) 東海



東海地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直ししている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

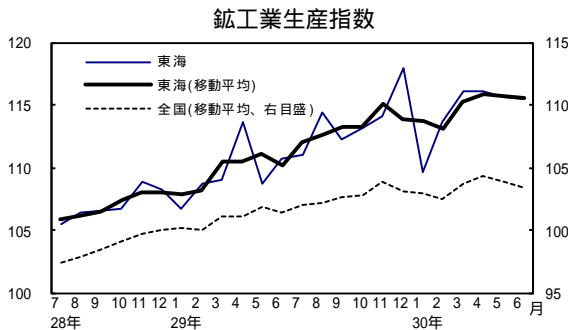
前回からの主要変更点

	前回(平成30年5月)	今回(平成30年8月)	
鉱工業生産	緩やかに増加しているものの、一服感	緩やかに増加	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直し	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

4 - 6月期には、「輸送機械」は、国内向け乗用車の新型車効果が一巡したものの、海外向け自動車部品が好調なことにより、増加した。「電子デバ、電気・情報通信」は、スマートフォン向け、データセンターのサーバー向けのメモリ需要が旺盛なことから、増加した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、増加した。「汎・生産・業務用機械」は、金属工作機械が好調であることから増加した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	35.2	4.1	1.9	3.2	4.7	2.1
電子デバ、電気・情報通信	19.7	1.2	3.5	3.8	1.6	5.8
石油・石炭製品、化学、プラ製品	14.9	1.6	3.1	0.0	3.2	2.2
汎・生産・業務用機械	8.9	2.8	1.6	1.4	3.8	2.3
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.0	0.2	1.6	1.5	0.4	2.9
鉱工業	100.0	1.7	2.3	0.0	0.4	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4 - 6月期、6月は速報値。

(備考) 1. '22年 = 100、季節調整値、東海の最新月は速報値。

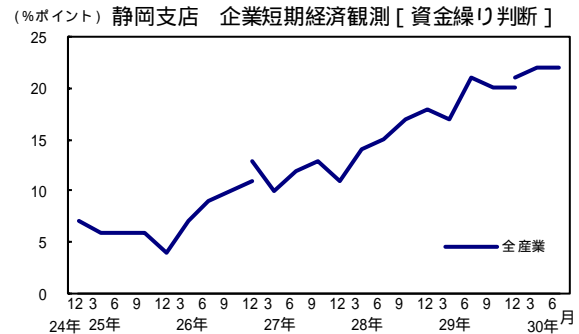
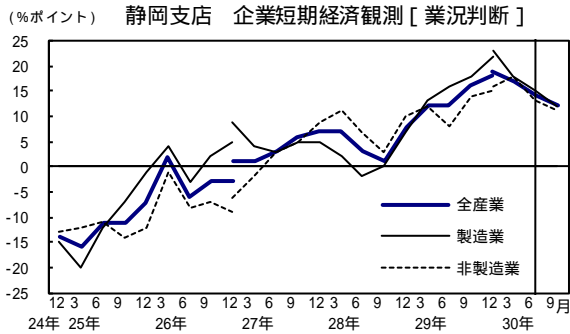
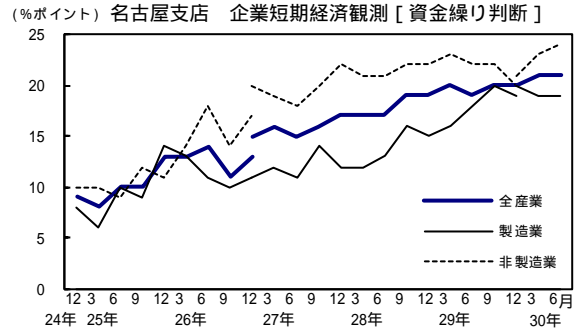
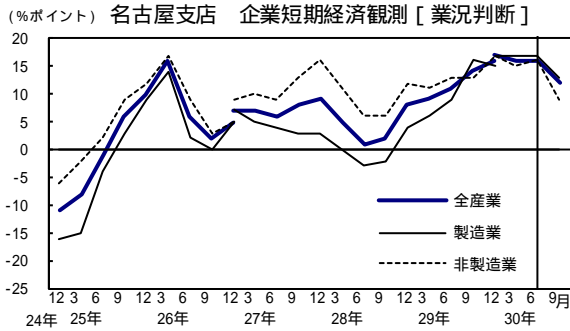
2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

3. 東海は内閣府にて算出。

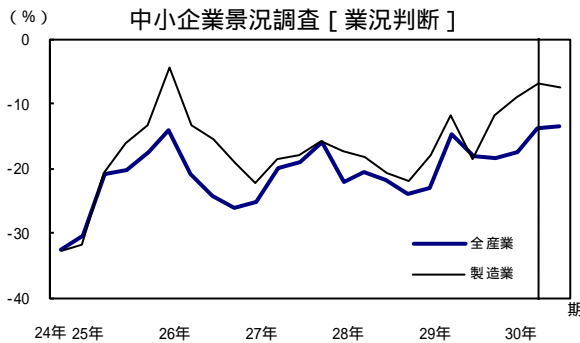
(2) 日銀短観における名古屋支店管内の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
静岡支店管内の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年9月は予測。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

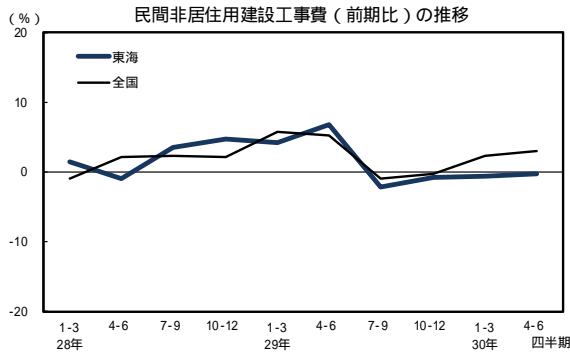


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]
「働き方改革に向けた需要が膨らんでいるようで、関連商品に対する問合せが増えている(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(6) 東海

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事はおおむね横ばいとなっている。



(備考) 1. 季節調整値。

2. 30年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で遡り開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比、%)

	29年度実績	30年度概
全産業		
名古屋支店	4.6	18.0
静岡支店	2.8 (6.9)	6.4 (1.9)
製造業		
名古屋支店	7.4	20.4
静岡支店	3.2 (11.3)	12.3 (4.6)
非製造業		
名古屋支店	1.5	15.2
静岡支店	2.3 (1.2)	0.4 (2.0)

(備考) 1. 22年度以降は、計画はリース会社対応ベース。

2. ()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比2.2%増、5月は同0.8%減、6月は同0.9%増となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、高額品や衣料品に動きがみられたことから、前年を上回った。5月は、高額品の動きが継続しているものの、衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。

6月は、催事効果に加え、高額品や衣料品に動きがみられたことから、前年を上回った。

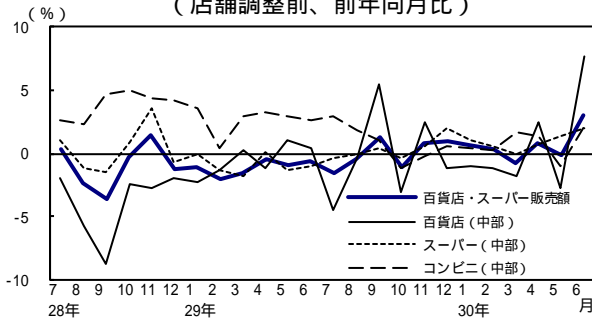
スーパーは、4-6月期は、衣料品が振るわなかったものの、新規出店効果に加え、飲食料品に動きがみられたことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「客の購買意欲は高く、更にもう1品と用命いただくことが多い。働き方改革や時給の上昇等、労働環境に関する報道も、消費者にとっては景気の良さを実感しているようである(その他飲食 [ワイン輸入])」などの回答がみられた。

百貨店・スーパー販売額等

(店舗調整前、前年同月比)



	30年4-6月	30年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.0	2.2	0.8	0.9
百貨店・スーパー(*2)	1.2	0.8	0.1	3.0
百貨店(*3)	2.4	2.4	2.8	7.6
スーパー(*3)	1.4	0.8	1.3	2.0
コンビニ(*3)	0.9	1.4	1.0	2.1
乗用車(*4)	2.9	1.5	2.3	6.4
(季節調整値)(*4)	3.6	4.9	2.6	1.3

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

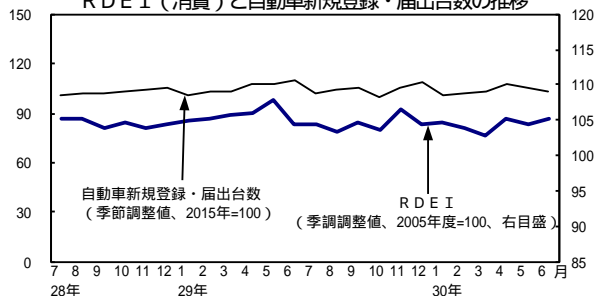
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

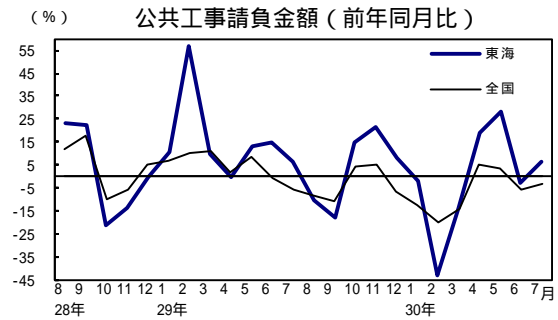
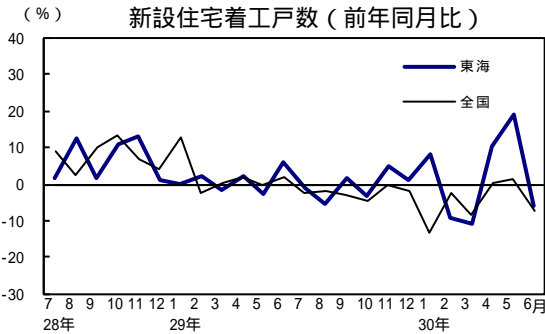
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

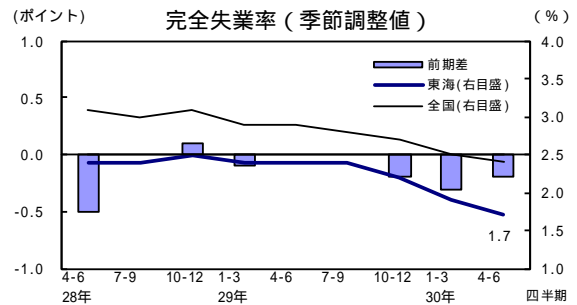
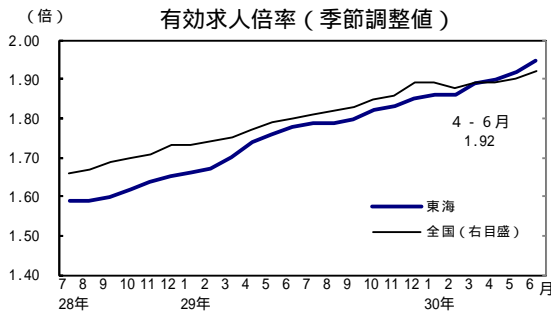


- (2) 住宅建設は前年に比べて増加している。
持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。
- (3) 公共投資は30年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。

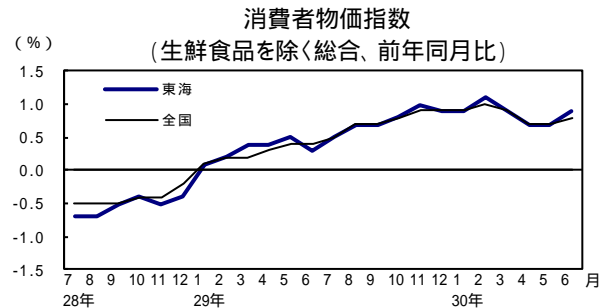


景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[雇用関連（現状）]
「採用力の高い企業は順調に推移しているが、地場中小企業は内定を出した候補者の取り合いになっている状況である（民間職業紹介機関）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年7-9月	10-12月	30年1-3月	4-6月	30年7月
倒産件数	253	271	273	278	85
(前年比)	0.4	3.4	14.7	5.3	1.2
負債総額	419	377	481	515	149
(前年比)	28.5	12.6	12.4	22.8	5.0



(6) 東海

